

ユネスコ

2023.4
vol. 1177



「大東太鼓～北大東島の子どもたちが伝える開拓の文化～」
大東太鼓 北曙会（沖縄県島尻郡北大東村）による国立劇場おきなわでの演奏の様子

CONTENTS

- 1 特集：プロジェクト未来遺産決定
- 3 東日本大震災子ども支援
 - ユネスコ協会就学支援奨学金
 - MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金
- 5 ユネスコ活動の広場
 - ユネスコ青年全国大会2023開催
 - 新規加入会員紹介
- 6 活動報告
 - ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト活動発表会
 - 第9回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
 - 世界寺子屋運動
 - 寺子屋リーフレット制作プロジェクト
- 11 お知らせ・募集
 - 理事会・評議員会報告
 - 日本ユネスコ国内委員会関連

「プロジェクト未来遺産 2022」決定

未来遺産運動は、日本の豊かな文化や自然を守り伝える市民の活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、100年後の子どもたちに伝えていくことを目指し、2009年にスタートしました。これまでに、伝統的な町並みや祭り、里山などの地域の遺産を保護・継承する多様な市民の活動が「プロジェクト未来遺産」に登録されています。

3年ぶりの募集となった「プロジェクト未来遺産 2022」には、コロナ禍により文化や自然の継承活動への影響が懸念されましたが、例年を上回る応募が集まりました。2月28日（火）の未来遺産委員会での最終選考を経て、6プロジェクトの登録が決定しました。

人口約600人の小さな島で、子どもたちによる力強い太鼓の響きが島全体に誇りと一体感を生み出す「大東太鼓 北曙会^{だいとうだいこ ぼくしやかい}」（沖縄県）の活動をはじめ、いずれのプロジェクトも、先人から受け継がれた地域の遺産を守り伝える市民活動の底力、そして文化や自然が私たちの生活にもたらす活気や豊かさを再認識させてくれます。（詳細はP.1-2）

新たに6プロジェクトが決定

今回で12回目、コロナ禍以来3年ぶりとなる「プロジェクト未来遺産」の募集には、全国から例年を上回る応募が寄せられました。
2月28日(火) に開かれた未来遺産委員会で、新たに6プロジェクトの登録が決定し、全79プロジェクトとなりました。(文化事業部)



① 沼須人形芝居継承者プロジェクト ～江戸時代の技を今につなぐ～



団体名: 沼須人形芝居あけぼの座
エリア: 群馬県沼田市

沼須人形芝居は、幕末の安政年間に始まり、明治中期に最盛期を迎えた一人遣いのハサミ式指人形が特徴の人形芝居です。昭和に入って長らく中断していましたが、1975年に保存会が結成されたことを機に「沼須人形芝居あけぼの座」として復活しました。

技術の向上だけでなく、人間の成長と人と人をつなぐことを大切に、子どもからベテランまでの座員が一丸となって活動しています。また、小学校での体験授業などを通じて、子どもたちの郷土愛を育むとともに、担い手の確保に努めています。地域の伝統の継承・公開を通じて住民の交流を促す取り組みは、地域コミュニティの強化にもつながっています。

② こんぶくろ池自然博物公園 ～市民で育てる百年の森プロジェクト～



団体名: 特定非営利活動法人 こんぶくろ池自然の森
エリア: 千葉県柏市

こんぶくろ池自然博物公園は、千葉県柏市北部の市街地に隣接し、東京ドーム約4個分の広さの森と湧水を有しています。市街地開発による周辺地域の環境悪化が進む中で、1980年代に市民による「こんぶくろ池」と周辺の森の自然環境を守るための活動が開始され、現在は、里山保全活動やモニタリング調査をはじめ、近隣大学と連携した希少種の保全再生プロジェクト、市内多数の小学校の受け入れなど、多様な活動が展開されています。都市近郊に残された貴重な自然環境を市民が主体となって守り、次の世代へと継承していくとともに、人と自然が共生する街づくりを進めています。

③ 若狭町の歴史遺産の縄文文化を全国へ



団体名: 若狭三方縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」
エリア: 福井県三方上中郡若狭町

日本海に面した若狭湾沿岸にある三方五湖^{みかたごこ}の一つ、三方湖のほとりには縄文時代草創期から前期を中心とした低湿地遺跡である鳥浜貝塚があります。この貝塚の程近くに開館した若狭三方縄文博物館の初代館長 梅原猛の理念に賛同し、縄文のもつ共生と循環の世界観を発信するために地域住民の有志により設立されたのが、若狭三方縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」です。

博物館と縄文ロマンパーク、そして周辺に広がる三方五湖をフィールドとして、博物館と連携しながら、6つの部会に分かれて、縄文文化の魅力を発信するためのさまざまな活動を行っています。

4 源流大学 ～知識だけでなく、生きた知恵を次世代へ～



団体名：特定非営利活動法人 多摩源流こすげ
エリア：山梨県北都留郡小菅村

多摩川の源流部に位置する山梨県小菅村には、源流の豊かな自然の恵みと共に生きる人びとの暮らしが存在します。少子高齢化が進み、源流域の優れた自然や文化が失われつつある中、小菅村とNPO法人多摩源流こすげ、大学そして地域住民の協働により、源流域での体験活動とおしてこの地域の「生きた知恵」と「技」から学ぶ場として開始されたのが「源流大学」です。

体験交流プログラムや源流食文化体験プロジェクトなどを通じて、上下流域に暮らす人びとの交流を促し、流域全体のつながりや、豊かな源流資源の保全・活用のための人材育成、コミュニティ形成を目指しています。

5 三石灯りの街 ～子どもたちと伝える耐火煉瓦で栄えたまちの記憶～



団体名：Mプロジェクト協議会
エリア：岡山県備前市

岡山県備前市三石地区は日本の近代化を支えた耐火煉瓦産業で栄えたまちです。その当時の隆盛を伝える近代建築群が織りなす景観と、まちの歴史の記憶を守り伝えるために、地域住民が一丸となって多様な活動に取り組んでいます。

四列穴門等煉瓦溝渠群や三石尋常小学校旧講堂などの特色ある建造物を有する町並みの価値を再発見し現在に伝えるイベント「三石灯りの街」をはじめとして、写真展の開催や地図やグッズなどの制作を通じてまちの記憶を見える化し、新たなまちの魅力の創出と子どもたちの郷土愛の醸成を図っています。

6 大東太鼓 ～北大東島の子もたちが伝える開拓の文化～



団体名：大東太鼓 北曙会
エリア：沖縄県島尻郡北大東村

沖縄本島の東方約360kmに位置する周囲13.52kmの小さな島に、八丈島からの開拓者によって八丈太鼓が持ち込まれました。北大東島の大東太鼓は、この伝統的な八丈太鼓に、和太鼓奏者 林英哲氏の現代的な太鼓が加わったことで、独自の演奏スタイルの大東太鼓として花開きました。

島内には大人の指導者がいないため、最上級生である中学3年生が下級生を指導することで、子どもから子どもへと技術が継承されています。子どもたちによって繰り出される力強い太鼓の演奏は、村の行事や祭事には欠かせない存在となっており、村をあげて子どもたちを応援することで住民の誇りと一体感を生み出しています。

総評

次世代に引き継ぐことの大切さ

今年は全体として、「次の世代に引き継ぐ」というメッセージが強く意識された未来遺産運動の趣旨に沿った応募が多かったと思います。伝統文化や自然を次世代に継承していくことは難しいがゆえに、地域にとって非常に大きな課題となっていますが、それぞれの地域で今回登録されたプロジェクトのようなモデルとなる取り組みが出てきて、それを共有していくことで、多様な取り組みを100年後に残すことに寄与できると思います。

未来遺産委員会委員長 西村 幸夫
(國學院大學教授)



ユネスコ協会就学支援奨学金

標記奨学金事業は、被災して経済状況が悪化した家庭の子どもたちを対象に、中学3年から高校2年までの3年間にわたって支援する給付型奨学金プログラムです。全国の個人・団体・企業からの募金をもとに、12年経ったいまも支援活動を継続しており、2011年からの累計給付人数は3844名、累計給付額は約25億7000万円です。

本誌では、これまでたくさんの奨学生たちの声を届けてきました。今号では、昨年社会人となった元奨学生の声を紹介します。
(企画広報部)

電気の大切さを実感したことが いまの仕事につながった



▲小学生から始めたサッカーは高校卒業まで続けた

志賀 翔太さん(19歳 ビル施設管理・メンテナンス会社勤務)

宮城県東松島市で育った志賀翔太さんが、震災を体験したのは小学1年のときでした。当時、ケガで松葉杖をついており、母が早めに車で学校に迎えにきていました。そのため、奇跡的に津波に巻

き込まれることなく、母と家に帰ることができたといいます。

「学校は海に近かったので、その後、津波の被害に遭いました。家族が迎えに来られず、夜も学校にとどまる子は結構いたようです」

自宅は床下浸水ですんだものの、崩れた部分もあり、修理しながらの生活が始まりました。そんな中、電気やガス、水道が止まった不便さが、幼い志賀さんの心に残っています。

「家の周りは津波のせいでどこも泥だらけでした。それでも外で遊ぶので、服は汚れてしまいます。水が使えないから洗濯に困る、と母によく怒られました」

電気も止まっていたため、太陽が昇ると起き、沈んだら寝る

という生活がしばらく続いたそうです。停電で大変だったことはほかにもあります。エレベーターやエスカレーターが使えなくなったのです。

「僕は5月くらいまで松葉杖だったので、階段の上り下りがきつかったのを覚えています。一緒に暮らしていたおじいちゃんも、やっぱり階段に苦労していて、そのとき電気の大切さを実感しました」

高校に進学したとき電気情報科を選んだのも、そのときの経験があったからだといいます。電気に関わる仕事に就こうと、大好きなサッカーの部活と両立しながら、電気工事士1種・2種などの資格を取りました。ユネスコ協会就学支援奨学金は、部活のユニフォームなどのほか、資格試験の受験料にも充てられました。そして昨年、希望するビル施設管理・メンテナンス会社に就職し、各地のエレベーターを保守・修理して回る忙しい日々を過ごしています。

「奨学金がなかったら大好きなサッカーが続けられず、取りたい資格も取れなかった。これまでの人生は違うものになっていたでしょう。本当に感謝していますし、今度は自分が助ける側になって、社会に貢献していけたらいいなと思っています」

今年に入社2年目。エレベーターを直すたび、感謝の言葉に力をもらいつつ、どんな故障にも対応できる保守員を目指しています。
(ライター／永山多恵子)

ユネスコ協会就学支援奨学金の募金受付終了のお知らせ

標記奨学金事業を指定した募金の受付は、2023年3月末日をもって終了いたしました。

これまでご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。

※募金の受付は3月末日に終了しましたが、奨学金の給付は2025年度末まで継続します。

今後は、後継事業である「災害子ども教育支援」への募金のご検討をお願いいたします。「災害子ども教育支援」は災害時に被災地の子どもたちや学校を支援する事業です。詳しくは以下のホームページをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/activities/kodomo/>

震災から12年。学びをあきらめることなく前進！

三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)と協働で2011年4月に標記基金を設立しました。この基金は、震災により親を亡くした児童・生徒を対象とした高校卒業までの給付型奨学金プログラムで、最終奨学生が高校を卒業する2025年度末まで支援を続けます。2011年からの累計給付人数は1486名、累計給付額は約22億7000万円です。今回は、2022年に高校を卒業した元奨学生のお手紙を紹介します。(学校支援部)

部活引退後は、大学受験に向けてとくに英語の勉強に力を入れました。将来英語を使えるようになるためにも大学でも引き続き頑張りたいと思います。また、さまざまな資格の勉強もしたいと思います。高校生活はコロナウイルスの影響で制限されることもたくさんありましたが、感染対策をしながら文化祭や修学旅行などよい思い出を作ることができました。マスク生活は続くと思いますが、将来に向けてさまざまなことに挑戦していきたいと思います。

ご支援ありがとうございました。

(岩手県陸前高田市)

今月から県内の大学に通い小学校教員免許取得を目指しています。長い間ご支援いただきありがとうございました。

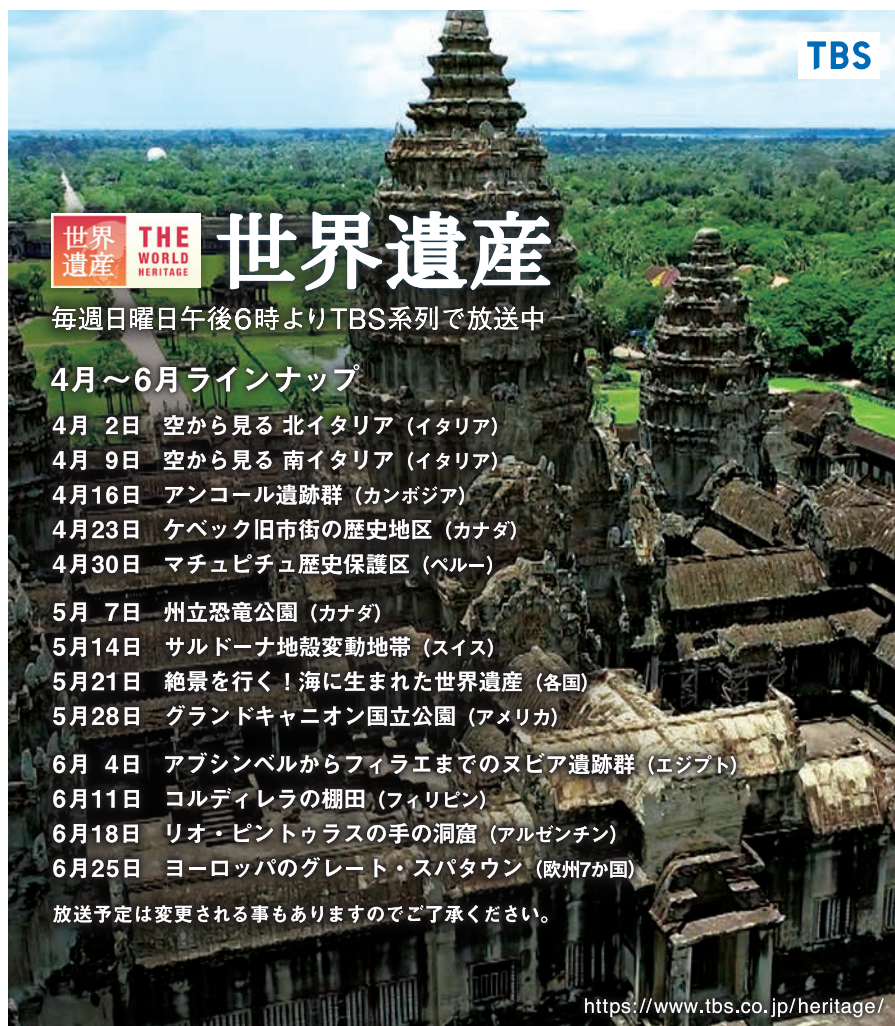
小学校1年生の3月11日、私は突然父を失いました。大好きだった父が帰ってこない毎日、これからどうなってしまうのだろうととても不安でした。学校に行きたくない日も多く欠席が多かった私を、当時の担任が話を聞いたり一緒に泣いてくれたり、寄り添ってくれました。大学1年になったいまでも気にかけてくれて、度々近況をお知らせしています。たくさんの人に見守られ応援していただき、いま大学生活を送ることができています。

これからも自分の目標に向かって頑張っていきます。本当にありがとうございました。

(宮城県仙台市)







世界遺産 THE WORLD HERITAGE

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

4月～6月ラインナップ

- 4月 2日 空から見る 北イタリア (イタリア)
- 4月 9日 空から見る 南イタリア (イタリア)
- 4月16日 アンコール遺跡群 (カンボジア)
- 4月23日 ケベック旧市街の歴史地区 (カナダ)
- 4月30日 マチュピチュ歴史保護区 (ペルー)
- 5月 7日 州立恐竜公園 (カナダ)
- 5月14日 サルドーナ地殻変動地帯 (スイス)
- 5月21日 絶景を行く！海に生まれた世界遺産 (各国)
- 5月28日 グランドキャニオン国立公園 (アメリカ)
- 6月 4日 アブシンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群 (エジプト)
- 6月11日 コルディレラの棚田 (フィリピン)
- 6月18日 リオ・ピントウラスの手の洞窟 (アルゼンチン)
- 6月25日 ヨーロッパのグレート・スパタウン (欧州7か国)

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

ユネスコ活動の広場

青年たちによる交流会！ユネスコ青年全国大会 2023 開催

ユネスコ青年全国大会が全国的青年連絡組織（※）主催により2月5日（日）オンラインで開催されました。青年全国大会は、民間ユネスコ運動に関わる青年会員の情報共有とユネスコ活動の活性化を目的とした大会です。

大会の中で行われたオンライングループワークでは、民間ユネスコ運動の新しい活動モデルを検討しました。地域遺産や福祉体験のスタディツアー、国際理解クッキング（在日外国人を講師とした料理教室）などの活動が提案され、持続可能な社会の実現を推進しようと青年たちによる熱い議論が交わされました。

国際理解クッキングについては、渋谷ユネスコ協会ですでに行われている活動であり、外国人が地域になじむためのよい交流の場になっています。議論では、渋谷ユネスコ協会の持っているノウハウを全国のユネスコ協会に広め、国際理解クッキングを日本全国で実施しようという画期的な提案がなされました。（組織部）

※全国的青年連絡組織…ユネスコ協会・クラブに所属する青年会員（15歳以上35歳未満）で組織され、青年ネットワークを維持、強化し、青年の意見を集約、民間ユネスコ運動の促進をはかるために活動しています。



発表で紹介された渋谷ユネスコ協会の国際理解クッキング「コクリカ」のようす

◆新規加入会員のご紹介◆

構成団体会員

中央区ユネスコ協会（東京都中央区） 会長 藤掛 正史

東京都中央区は銀座・日本橋・築地・人形町などの地域があり、江戸時代からつながる歴史・生活文化・芸術の拠点をもち、日本を深く感じ体験できる土地柄です。また、観光名所に訪れる外国人たちがにぎわう国際的な地域でもあります。

中央区と協力しながら、子どもたちや区民の皆さまと、平和な心を育んでいくユネスコ活動を展開してまいります。

維持会員

城北化学工業株式会社 代表取締役社長 大田 友昭

城北化学工業株式会社は1957年に創業以来、製品寿命を延ばす各種化学品を製造し、環境に優しい企業であることを常に目指しております。連盟の目指す平和で公正な社会づくりに参画させていただきたいと思っております。

MITホールディングス株式会社 代表取締役社長 増田 典久

MITホールディングス株式会社は、ITサービスで人びとの生活を豊かにするライフサポーターグループとして、日本ユネスコ協会連盟の目指す「教育を通じた平和の普及」活動に賛同し、参画させていただきます。



ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト 活動発表会

株式会社三菱UFJ銀行の協力のもと、持続可能な社会に向けた人材育成を目指し、これまで13年間で
のべ1132校のユネスコスクールに対して活動助成を実施してきました。2021年度からは、助成校同士の
「交流・連携」に焦点を当てた「活動発表会」を行っています。2022年度の発表会には、11校の助成校
(小学校6校、中・高5校)が参加し、2022年12月9日(金)・10日(土)の2日間に渡りオンラインで開催
しました。(学校支援部)

■活動実践① いわみ 岩美町立岩美北小学校(鳥取県)

ふるさと岩美の海のすばらしさを知ろう そして広めよう

目指す
SDGs



学校のある「山陰海岸ジオパーク」の恵まれた自然、美しい海を学びのフィールドとして、2カ年に渡ってふるさと岩美の海の魅力や課題を探り、学んだ内容を学校外へ発信する活動を展開しました。子どもたちは、箱メガネで海の中を探検したり、実際に海の生きものに触れたり、地域の人びとと一緒に釣りやスルメづくりを体験したりすることで、海や水産資源の魅力と現状を学びました。また、おそうじカヤック(カヤックにのり、海岸のごみを拾って調査)をとおして、海洋汚染問題を自分ごととして考えました。さらに、「豊かな海を守るためには、山の環境も大切」という学びから、山のゴミの調査や木のストローづくり挑戦し、海からフィールドを広げて学習を深めました。



▲おそうじカヤックではいろいろな海岸ゴミが集まった

■活動実践② 文化学園長野中学・高等学校(長野県)

廃油石鹸プロジェクト! ~4つのRで、海の豊かさを山の私たちから守る

目指す
SDGs



生徒会を中心として、毎年、環境問題をテーマにした活動を実施しています。2021年度からは「海の豊かさを守ろう(SDG14)」を重点に活動しており、2022年度は廃油や合成洗剤による水質汚染を解決するための4R活動(Reduce: 減らす、Reuse: 再利用、Recycle: 再生、Refuse: 断る)に全校で取り組みました。具体的には、廃油石鹸と市販の合成洗剤の環境負荷の違いを科学的に検証した上で、家庭用食用油を集めて廃油石鹸を制作しました。できあがった石鹸は、盲学校と協働して点字用紙で包装し、文化祭や地域イベントなどで販売・配布することで、水質問題について広く啓発活動を行いました。



▲廃油から石鹸をつくり水質問題について考えた

当日の様子は、当連盟 YouTube チャンネルでアーカイブを配信しています。ぜひご覧ください。

小学校の部:

<https://www.youtube.com/watch?v=47TVklR6uuU&t=2s>

中学・高校の部:

https://www.youtube.com/watch?v=oqGKxzT9_pU

<小学校の部>



<中学・高校の部>



アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

「活動報告会」と「減災教育フォーラム」、3年ぶりの対面開催

東日本大震災から12年の月日が経ちました。未曾有の被害を受けた被災地の経験からの学びを全国に伝える本プログラムも9回目を数えました。アクサ生命保険株式会社の協力のもと、全国の小・中・高校の減災教育活動に助成し、被災地での教員研修（9月）を経て、締めくくりに各助成校の実践を共有するという、1年を通した取り組みです。2月に東京で「活動報告会」と「減災教育フォーラム」が、コロナ禍を経て3年ぶりに対面で実現しました。

（学校支援部）

活動報告会

2月10日(金)

開催地 TKP新橋カンファレンスセンター（東京都千代田区）

内容 講義、グループワークを含む助成校の発表など

参加者 2022年度助成校26校の教員26名

活動報告例① 静岡県浜松市立砂岡小学校

地域と連携し、子どもの主体性を育てる減災教育を目指す



同校では、従来の避難訓練の繰り返しではなく、「命を守る」新しい減災教育への取り組みが課題でした。災害はいつ・どこでも起こりうるとの想定で、子どもが主体的に行動する場面設定をした避難訓練を実施し、発災時には子どもたち自身で意思決定し、自分の命を守る行動力を育てる工夫をしました。

また、9月の教員研修会で学んだ東日本大震災の被災地の教訓を生かし、地域と連携した減災教育の改善を図りました。その結果、自治会と連携し、子どもたちが主体となり地域住民と協働した防災マップを作成するなど、子どもたちと地域住民と一緒に減災について考え、行動することができました。

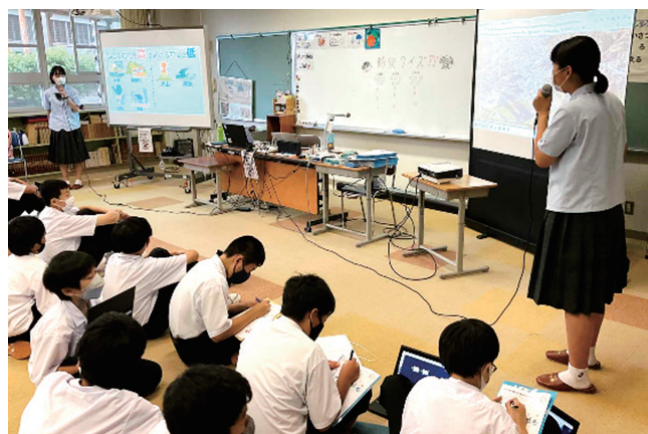
◀防災マップ作成のため、地域住民と避難場所を確認

活動報告例② 愛媛県立松山工業高校

地域づくりに貢献する人材を育てる

同校では、SDGsの視点を地域防災に生かし、地域と連携した持続可能な社会づくりを担う防災リーダーの育成に取り組みました。取り組みの一環として、生徒自らが小・中学校へ出前授業を行い、「防災まち歩き」や「防災マップづくり」、「防災クイズ」などを実践しています。とくに「防災まち歩き」では地域の防災士やPTA、大学のクラブなども参加し、地域に根差した活動になっています。

9月の教員研修会では、災害を自分ごととして捉え、それを伝えることの重要性和難しさが共有されました。それを踏まえた教員の指導で、減災の大切さをわかりやすく伝える教材を新たに開発するなど、出前授業の改善を図りました。活動の効果で教員や保護者、地域住民の意識は高まっており、今後も持続性を担保するために、学校として組織的に取り組んでいます。



▲中学校で出前授業を行う高校生

減災教育 フォーラム 2月11日(土)

開催地 TKP 新橋カンファレンスセンター(東京都千代田区) およびオンライン配信

内容 講演、パネルディスカッション、事例発表

参加者 助成校の教員26名のほか、教育関係者、ユネスコ協会・クラブ、一般参加者など計203名
※参加者数はオンライン配信視聴者も含む

講演 ESDを基盤とした持続可能なまちづくりに向けた防災・減災教育

第9回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」 減災教育フォーラム



▲学校や地域との連携について講演する安田昌則氏

安田昌則氏(前大牟田市教育長/日ユ協連理事)による講演では、2020年7月に九州地方で発生した豪雨災害時に大牟田市教育長として経験した学校の災害対策や、地域との連携による復旧・復興の事例を紹介しました。児童生徒の命を守るために、学校や教育委員会は関係機関ときめ細かいネットワークを構築し、日常的に意思疎通を図りながら信頼関係を築くこと、災害時に組織的に活動できる校内体制を整えることが大切であると指摘しました。また、2022年10月の大牟田地方ユネスコ協会設立にも言及し、地域と連携した持続可能なまちづくりへのさらなる期待を寄せました。参加した校長先生からは、学校経営の中で減災教育をどう位置付けし、運営すればよいか参考になったとの感想が聞かれました。

パネルディスカッション

減災教育を地域に広げ、未来につなげる～災害の教訓を減災教育の継続と発展にいかして～

パネリスト：安田昌則氏、菅原弘倫先生(気仙沼市立階上小学校 校長)
大津山光子氏(認定特定非営利活動法人 SEEDS Asia 事務局長)
木幡美幸氏(奈良教育大学1回生)
コメンテーター：上田和孝先生(新潟大学 准教授)

パネリストによる発表の後、及川幸彦先生(奈良教育大学 准教授/日ユ協連理事)の進行により活発な意見交換が行われました。教員志望の大学生である木幡氏の、「いまの私は、将来教員になったときに、災害時に自分の命や子どもたちの命を守る自信がない。だからこそ、自分は被災地に足を運び、真の減災教育を学んでいる。学びの中で、子どもの主体性を育てる減災教育が大切だと認識した。また、被災地だけでなく未災地の学校こそ、減災教育に力を入れる必要がある」という話が参加者の共感を得ました。

最後にコメンテーターの上田和孝先生(新潟大学)より、「パネリストの話から、災害時には、解のない課題に対して協働して解決することが大切である」と総括がありました。



▲盛り多かったパネルディスカッション

主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

協力：アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学 ESD・SDG s センター

プログラムコーディネーター/講師：及川幸彦先生(奈良教育大学 准教授/
日ユ協連理事)

講師：上田和孝先生(新潟大学工学部附属工学力教育センター 准教授、認定
特定非営利活動法人 SEEDS Asia アドバイザー)

ファシリテーター：嵩倉美帆氏(公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所
海洋事業企画部 海洋教育チーム 研究員)

後援：文部科学省

同じDNPでも 開発分野はまるで違う。

顔認証データのプラットフォーム構築、超微細印刷技術の半導体製造への応用、再生医療や文化財の保護まで。DNPには社員それぞれの多岐にわたる専門知識と、独自の視点がある。その掛け合わせが、新しい未来の姿を指し示す。だからDNPはユニークだ。理想の未来はひとつじゃない。解くべき課題はひとつじゃない。時には会社の垣根をも飛び越え生まれる無数のアプローチがきっと、

未来のあたりまえをつくる。 **DNP**

その全貌はWebで。

DNP×DNP



大日本印刷

世界寺子屋運動

カンボジアとネパールより最新情報をお届けします

カンボジア 21軒目の寺子屋が完成しました！

21軒目の「ワリン寺子屋」は、シェムリアップ州の市街地から北西に90キロ、州境に位置するワリン郡ワリン町に建設されました。

地域人口約1万3000人のうち9割以上が農業で生計を立てていますが、肥沃とはいえない土壌であること、灌漑が進んでいないことから、2割近くの人が1日1ドル以下の収入で生活しています。15歳以上の非識字者は約500人と見積もられているほか、学校に行っていない14歳までの子どもも約500人いることから、学校外教育を担う寺子屋の役割は大きいと考えています。

2月16日には、州副知事や郡長、州教育局長らが列席する中、寺子屋の開所式が行われました。寺子屋では、地域のニ

ズにこたえるべく、成人向け識字クラスや小学校クラス、幼稚園クラスのほか、技術訓練や小口融資などの貧困対策事業を実施します。



開所式に列席したシェムリアップ州副知事（前列左から5番目）ら

ネパール ルンビニの小学校クラスでは447人が学習中

ネパール寺子屋プロジェクトでは、2020年7月からインド国境に近いルンビニの新たな3地域で小学校クラスや幼稚園クラスを実施しています。

現在、小学校クラス（3年間）では1年生が19クラ

ス、2年生が27クラス実施されており、合計447人が学んでいます。生徒は低いカーストの子どもやジャナジャーティという少数民族の子どもたちです。学校に一度も通ったことのない生徒のほか、小学校1年生から3年生くらいで退学してしまった生徒も多くいます。

持続可能な運営を目指し、授業は地域の建物を借りて行われます。教員も地域の高卒以上の人から選ばれ、研修で教授法やクラス運営について学んだ後、授業にのぞみます。ルンビニでは、ネパール語ではなく「アワディ語」という言葉が話されており、授業もこの言語で行われています。

小学校クラスの生徒たちは3年間の課程が修了した後、地元の小学校に編入したり、中学校に進学したりしています。



ルンビニの小学校クラスで行われている算数の授業

（海外事業部）

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

「寺子屋リーフレット・コンテスト」
受賞作品決定！

2022年度「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」コンテストの受賞作品が決定しました。本年度は、全国26校・約1850名の小・中・高校生が参加し、世界寺子屋運動について学ぶとともに、書きそんじハガキ回収を呼びかけるリーフレットを作成し、実際に活用しました。

最優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」に選ばれた右の作品は、2023年度「書きそんじハガキ・キャンペーン」のチラシに素案として掲載される予定です。

(学校支援部)

日本ユネスコ協会連盟賞
徳島文理中学校・高等学校 BTPさんによる作品



Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 (ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

トルコ・シリア大地震への緊急支援のお願い

2月6日に、未曾有の大地震がトルコ、シリアにおいて発生しました。同じ地震国の市民として、心から哀悼の意を表します。日本ユネスコ協会連盟は、この甚大な被害について人道的観点に立って、被災された方々へ少しでも手を差し伸べるべく緊急支援を広く呼びかけます。

1. 皆さまからの募金の全額を両国への緊急支援活動の活動資金として以下に送金します。

- ・特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム
<https://www.japanplatform.org/>

2. 募金受付期間

2月16日(木)～5月31日(水)

*期間は変更になる可能性があります。

3. 寄付方法

ゆうちょ銀行から

口座番号 00190-4-84705

口座名義 シャ ニホンユネスコキョウカイレンメイ

※払込取扱票に「トルコ・シリア大地震」とご記入ください。

※ゆうちょ銀行の窓口からの送金のみ振込手数料が免除となります。

お知らせ

「第14期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」助成校決定！

株式会社三菱UFJ銀行の協力のもと、SDGs達成に向けた「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践するユネスコスクールを対象に、活動費用の助成を行っています。2022年12月1日～2023年1月20日までの間、2023年度の助成校を募集したところ、全国から92校の応募があり、審査の結果、83校(10万円枠80校／30万円枠3校)への助成が決定しました。助成校名や過去の実践例は、下記の特設HPをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/sdgs-assist/>

訃報

柳在乾(ユ・ジェイクン) 韓国ユネスコ協会連盟・世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟会長

韓国ユネスコ協会連盟会長としてアジアを代表し、世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟の会長も務められていた同氏が、2022年12月1日に逝去されました(享年85歳)。コロナ禍前は当連盟の全

国大会にも必ずご出席いただいていた。謹んでご冥福をお祈りいたします。

竹尾徳治 元日ユ協連事務局長

2003年から2005年まで当連盟の事務局長を務められ、その後当連盟の個人会員で飛鳥・檀原ユネスコ協会とユネスコアルムニクラブに所属されていた同氏が、2023年3月12日に逝去されました(享年83歳)。謹んでご冥福をお祈りいたします。

募集

第10回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 2023年度 助成校募集(文部科学省／日本ユネスコ国内委員会後援)

減災教育に取り組む全国の小中高校などを対象に今年度の参加校を募集します(4月中旬～5月末)。本事業は①助成金(10万円) ②教員研修会(3日間、気仙沼市予定) ③活動報告会・減災教育フォーラム(2日間、東京予定)で構成されています。(※②③は旅費・宿泊費全額補助) 本事業の詳細は下記の特設HPをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/gensai/>

理事会・評議員会報告

■第552回理事会

1月14日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 「使途指定のない遺贈の配分基準」における遺贈額と配分の変更(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) 定款・諸規程改定検討部会
- (4) 世界寺子屋運動部会
- (5) 地域代表・青年代表理事会議

2. 2023年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(地域協働型包括教育支援事業 テストランの進捗状況) 小山田理事/(アクサユネスコ協会 減災教育プログラム 減災教育フォーラムのご案内) 及川理事/(第14期ユネスコスクール SDGsアシストプロジェクトオンライン活動発表会) 安田理事
2. 選考委員会報告
3. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
4. 世界遺産活動新規事業の実施について
5. 第55回評議員会にて提出された意見(第55回評議員会議事要録)

6. 2022年度 事業進捗報告

7. 代表理事の職務執行状況報告(2022年11月13日～2023年1月13日)

8. 後援・共催事業

9. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

10. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任

11. 第56回評議員会議題(案)

■第553回理事会

3月11日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 地域協働型包括教育支援事業「U-Smile～みんなでつなぐ子ども応援プログラム～」の立上げについて
3. 2023年度事業計画書(案)・収支予算書(案)・資金調達及び設備投資の見込み(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 定款・諸規程改定検討部会
- (3) 世界寺子屋運動部会
- (4) 地域代表・青年代表理事会議

2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 「トルコ・シリア大地震緊急募金」の実施
2. 担当理事からの報告(アクサユネスコ協会 減災教育プログラム 減災教育フォーラムの報告) 及川理事/(プロジェクト未来遺産) 南口理事
3. 第56回評議員会にて提出された意見(第56回評議員会議事要録より)
4. 選考委員会報告
5. 2022年度 事業進捗報告
6. 2023-2024年度の諸会議運営・スケジュールについて
7. 代表理事の職務執行状況報告(2023年1月15日～2023年3月10日)
8. 事務局人事について
9. 後援・共催事業
10. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

■第56回評議員会

1月28日(土)、オンラインにより開催した。

I. 報告事項

1. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任
2. 2022年度 事業進捗報告
3. 2023年度 事業計画書(案)・収支予算書(案)

II. ご講演

文部科学省国際統括官付国際戦略企画官
白井 俊雄

【テーマ】最近のUNESCOの動向と日本の役割

日本ユネスコ国内委員会関連

日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)就任および当連盟評議員就任のお知らせ

2022年12月1日より、以下の方々が日本ユネスコ国内委員会委員に就任し、同日付で当連盟の評議員に就任しました。

北海道 押谷 一(江別ユネスコ協会会長)

東 北 藤本 恵子(秋田ユネスコ協会副会長)

日本ユネスコ国内委員会総会報告

3月6日(月)、第152回日本ユネスコ国内委員会総会が開催されました。総会では、文部科学省、文化庁、外務省が最近のUNESCO関係の動きを紹介したほか、日本のUNESCO加盟70周年を機に発足した「次世代ユネスコ国内委員会」の報告などがありました。また、運営小委員会より出された『「これからの時代におけるユネスコ活動の推進等について」』今後の検討に向けた論点整理』をもとに、ユネスコ活動のあり方について熱心な議論が行われ、次回の総会でも議論を引き継いでいく予定です。